

登録コード	UAA42500	開講年度	2026				
授業題目	ドイツ語学・ドイツ文学実践演習					担当教員	磯部 美穂
						副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・3時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					ドイツ語圏の歴史、社会、言語に関する知見を深め、言語史・言語学領域の問題を追及し、理論を構築することができるようになる。	
(2)授業の概要	ドイツ語学研究の基礎的な研究方法について理解し、それに基づいて実際のドイツ語テキストの分析・解釈をおこなっていく。授業は教員による講義・質問と受講生による課題発表・質問を往還的に行うアクティブ・ラーニングの形式をとる。						
(3)授業計画	第1回：導入、ドイツ語学研究の視点（通時的・共時的視点） 第2回：言語の起源（基礎講義） 第3回：言語の起源（課題発表） 第4回：ドイツ語について：方言学的考察（基礎講義） 第5回：ドイツ語について：方言学的考察（課題発表） 第6回：ドイツ語の成立：規範文法について（基礎講義） 第7回：ドイツ語の成立：規範文法について（課題発表） 第8回：ドイツ語音声学：母音システムについて（基礎講義） 第9回：ドイツ語音声学：母音システムについて（課題発表） 第10回：ドイツ語の造語：語形態について（基礎講義） 第11回：ドイツ語の造語：語形態について（課題発表） 第12回：ドイツ語の文：ヴァレンツ理論について（基礎講義） 第13回：ドイツ語の文：ヴァレンツ理論について（課題発表） 第14回：ドイツ語のテキスト：テキストの結束性について（基礎講義） 第15回：ドイツ語のテキスト：テキストの結束性について（課題発表） 期末試験は行わず、期末レポートを課す。						
(4)成績評価の方法	●以下を総合して判定する。 授業への取り組み方（50％）、レポート（50％） ＊評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀、89 - 80％ 優、79 - 70％ 良、69 - 60％ 可、59％以下 不可。						
(5)成績評価の基準	【卓越している】授業内で扱われる項目を正確に理解し、問題の背景を自らの言葉で説明し、適切な方法論を用いて導き出した結論を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】授業内で扱われる項目を正確に理解し、問題の背景を自らの言葉で説明し、適切な方法論を用いて導き出した結論を総合して、かなり上にある。 【やや上にある】授業内で扱われる項目を正確に理解し、問題の背景を自らの言葉で説明し、適切な方法論を用いて導き出した結論を総合して、やや上にある。 【その水準にある】授業内で扱われる項目を正確に理解し、問題の背景を自らの言葉で説明し、適切な方法論を用いて導き出した結論を総合して、その水準にある。						
(6)事前事後学習の内容	教科書の該当箇所を事前に読み、議論の問題となりうる点を考えておくこと。また担当者は該当箇所の要約を作成すると共に、前回授業のディスカッションのプロトコルを提出する。						
(7)履修上の注意	高度なドイツ語読解能力があることを前提とする。						
(8)質問、相談への対応	メールまたは教場にて質問，相談を受け付ける。 メール：isobe@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	Ernst, Peter (2011): Germanisitische Sprachwissenschaft. 2. Aufl. UTB-Basic, Wien. 他						
【参考書】	Linke, Angelika u.a. (2004): Studienbuch Linguistik, 5., Aufl. Tuebingen.						